

仁科三湖スイムラン 今夏休止



青木湖横断にスタートするスイムランの参加選手ら―昨年8月

首都圏の愛好者ら 開催8年

助成切れ ボランティアに「限界」

首都圏のスポーツ愛好者らが大町市で開いてきた「仁科三湖縦断アドベンチャースイム&ラン」大会が、今夏は休止することが21日分かった。2003年から8回続き、都市住民を大町につなぐ交流イベントに育っていたが、有志のボランティアだけでは継続が難しくなった。

大会は、都内在住の造園コンサルタント矢口正武さん(64)らトライアスロンやスキーなどの愛好者たちが手弁当で運営。「都会の人間にとってこれ以上ない魅力的なフィールド」(矢口さん)の青木湖、中綱湖、木崎湖を計5キロの泳ぎと計8キロのランでつなぐレースに、全国から毎回平均60人の参加者とその家族、

友人らが訪れていた。

運営経費は、参加料と笹川スポーツ財団の助成金で賄ってきたが、矢口さんによると毎回赤字。コース下見や関係者との打ち合わせで都内から通う費用もすべて持ち出しで、助成が昨年で切れたこともあって継続を断念した。併せて、市に提案して渋谷区・恵比寿の市民まつりで続けてきた大町の特産品や観光PRの出店も見送るといふ。

開催趣旨に「地域の活性化」「地元の人が誇れる大会」との目標も掲げてきただけに、矢口さんは「楽しみにしてくれているファンもいて残念だが、空回りしている感覚が否めなくなった」。市観光協会の宮崎亮・専務理事は「大町を全国に発信した功績は大きい。これで終わりでなく別の形でつなげていけるよう考えたい」と話している。